

# まちづくりは対話から

どうしたらまちづくりの課題を解決できるでしょうか？

つくば・市民ネットワークでは6年間の実践の中で一つの方法が見えてきました。

それは、その課題に関係する人たち（行政の担当者・専門家・関心ある市民・関連事業者等）が一堂に会して対話する場を作ることが大変効果的という点です。

## 対話の場づくりが解決の第一歩

例えばレジ袋有料化は、この方法で成功しました。市民ネットワークが参加している市民団体「エコライフフレンズ」が呼びかけたレジ袋フォーラムをきっかけに、事業者・市民団体・行政がそれぞれの立場から情報・意見・解決法を話し合い、市内のレジ袋削減が実現しました。今や、スーパーでマイバッグを使う姿は当たり前前の光景になりました。

また、「環境フェスティバル」や「男女みんなの集い」など行事の実行委員会では、市民参加がある程度取り入れられ、会議で一堂に会することで、テーマの背景にある地域課題についても話し合う機会になりつつあります。

## 市民の力を活かす対話を

これらの経験から、課題解決の対話のすすめ方で大切なことが3つあると気づきました。

- ① 互いの持つ情報を充分出し合い、本音で話し合う。
- ② そのために対話の時間を充分とり、回数を重ねる。
- ③ 本当の当事者である市民をはずさない。

しかし、市の各種審議会や計画策定の懇談会など多くの会議でまだこの3つが不足しています。行政から見えていないところに、高い関心やア

## 学校給食センター整備計画～その後

つくば市内の学校給食センターについて「筑波以外の5センターを統合し12,000食の大規模センターを2箇所に建設する」計画が公表され、「安全な学校給食を考える会」が中心となり計画の見直しを求めて請願署名活動を行ったのが丁度1年前。

その後、約10,000筆の署名と2月に実施されたパブリックコメントで約100件の意見が寄せられたが、教育委員会で修正計画が決議されたのは11月末。「筑波・荃崎センターは存続、残り4センターを統廃合し、旧豊里庁舎駐車場に8,500食、谷田部センターを12,000食のセンターに建て替え」と公表された。

市民ネットでは「学校給食は教育の一つ。食育も安全もできる限り身近な給食施設が最適」と考え、「親子方式や自校式への計画転換」を求め、広く市民へ賛同を呼びかけていきます。



アイデアを持つ市民・事業者が埋もれている可能性は大きく、それこそがつくばの強みではないでしょうか。このような一般市民や事業者が誰でも参加できる仕組みが必要です。これからますます重要になる公共交通や地域福祉、子育て支援やつくば環境スタイル計画など、あらゆる課題において「対話」はきつと役に立つはず。市民ネットは、今年もさらなる市民参加の拡充を目指して「対話」を進めていきます。

## 話そう!会

2月7日(月)10～12時 荃崎公民館

2月8日(火)10～12時 並木公民館

2月13日(日)14～16時 市民活動センター

議会の報告、身近な問題について話し合います。どなたでもお気軽にお越し下さい。

## 一般質問項目

1. 自治基本条例策定
2. 地域コミュニティ政策
3. 男女共同参画政策
4. パブリックコメントの手続き

# パブリックコメント制度を形骸化するな!

つくば市議会議員  
環境経済常任委員会  
(1月～総務常任委員会)

ながい えつこ  
**永井 悦子** の議会報告



## パブリックコメントとは

市民が市政に参加する方法の一つである『パブリックコメント』制度(以下パブコメ)。しかし、その原則が守られていない事例があり、行政の姿勢について確認しました。

『パブコメ』は「市民と行政がともに施策をつくる手続き」として6年前から施行されています。市の基本的な計画や制度を定める条例を作ったり変更する際に市民の意見を公募し、それを考慮して最終案をつくる手続きです。通常募集は1ヶ月程度、その後1～2ヶ月でまとめ、意見に対する市の考え方が示され、市のHPや公民館で結果が公表されます。

目的は「市政への市民の



## パブコメ制度の軽視

積極的参加を促進し、政策形成過程の公正性、透明性の向上を図るとともに市民協働による市政推進」で、市民参加の制度の一つとして位置づけられています。昨年9月に『(仮称)生涯学習施設基本計画』のパブコメが実施されました。公民館を廃止し地域交流センターに名称変更すると共に、運営について基本計画を示すものでした。

公民館廃止の是非については数多くの意見が寄せられていたようです。しかし、市民にはパブコメの結果は知らされないうまま、11月2日突然市長の定例記者会見で『地域交流センターの設置』が発表されました。

これでは「市民の意見を公募しそれを考慮して最終案をつくる」という制度の目的が達成されないばかりか、パブコメを行う意味そのものがなくなってしまうます。

## 暮らしやすい社会 ～男女共同参画の視点から～

昨秋開催された「男・女のつどい2010」で湯浅誠氏は、「これからの日本社会は女性が能力を発揮し社会参加をしなければ成り立たない。女も男も全員参加型の社会に向けて、共に活かしあってよい社会をつくろう」と講演された。

つくば市では、年間市職員の40人以上が育児・看護休業を取得しているが、その全てが女性という状況。一方、審議会等の女性委員の割合は22%台を続けており、政策づくりへの参加は低い。また、行政が行った女性相談438件のうちDV(ドメスティックバイオレンス)関連が15%と増加傾向にあり、直接窓口駆け込み保護申請する事例も出てきている。

昨今、男女共同参画について女性の進出がクローズアップされるが、身近な場面でのお互いを尊重する意識付けには、今後も地道な取り組みが必要だ。就業面では、女性の力を活かす工夫や一歩進んだワークシェアリングへの理解を深めるなど各組織トップの研鑽に負うところが大きい。



## 条例化を!

この指摘に対して市長公室長は「パブコメは、市の施策に親しんでもらう機会」と述べました。しかしパブコメは、施策に親しむというレベルではなく「市民参加の重要な手続き」の一つです。今回の問題は、このような行政の認識不足が引き起こした市民軽視の結果といえます。

折しも、つくば市では自治基本条例に取り組みの真っ最中です。市民も行政も共に市政運営を行うことを本気で考えなければなりません。今後行政はパブコメの要綱の見直しを行うとしていますが、市民参加の確実な実施を求め条例化を強く要望していきます。



# 4月から変わる公共交通 改善はみんなの手で!

つくば市議会議員 せと ゆみこ  
総務常任委員会 瀬戸 裕美子 の議会報告  
(1月~環境経済常任委員会)

## 一般質問項目

1. 学校給食
2. 交通施策
3. 児童生徒、保護者、教師などのメンタルケア
4. 文化施設の安全管理

今年4月から、つくばバスは現在の地域循環バスから、「鉄道の二次交通としてのコミュニティバス」と「地域の足としてのデマンドタクシー」に、大きく様変わりします。これまでのつくばバスになかった、目的地へのスピーディな到着と、地域内の移動を住民のニーズに合わせて自由度を持たせるといった二つの目的が叶う計画とのことです。

担当課は2ヶ月間をかけて市民への説明会を市内の小学校区毎に行いました。

### 浮かび上がる問題点

この計画の策定に向けて、21年度から公共交通活性化協議会が組織され、調査検討が重ねられてきました。私たちつくば・市民ネットワークは交通弱者の立場で、協議会の進捗状況に注目してきました。そして公共交通活性化協議会のメンバーにバス利用者が入っていない点や、新たな計画で切り捨てられる利用者が出る懸



れがあること、初めての試みであるデマンドタクシーの問題点などを指摘し、改善を求めてきました。

特に問題なのは、これまででつくばバスで通学していた一部の小学校と県立養護学校が、コースから外れてしまふことでした。その後、

県立養護学校については自立訓練の一環として、朝夕のみコミュニティバスの利用が可能になりました。

### 議事録の公開と市民公募を実現

このような問題について検討するための活性化協議会であるはずなのですが、市民に見えないところで話が進められていったようで、このようなやり方には疑問を感じます。

今後運行が始まってから、バス停が大幅にカットされたことなど、様々な不都合が出てくると思われまふ。

その場合にはぜひ地域での意見交換や協議会での十分な検討を行い、市民に分かるような検討過程の公表が不可欠です。

市民ネットでは、協議会の市民委員の公募について要望書を提出した結果、一人程度の公募が決まりました。資料や議事録の公開も要望を重ね、やっとHPに公開されました。

しかし市民にとって使いやすい公共交通にしていくなには、まだまだ足りません。市民参加による公共交通の充実を引き続き目指していきます。

## 発達障害のメンタルケア

発達障害が原因で、いじめにあったり学校生活に馴染めず不登校になる子どもたちがいます。けれども「成長段階の早い時点で発達障害に気づき、的確な対処で集団生活になじむことができる」と発達障害専門の医師は提唱しています。学校保健医・養護教諭・教師など関わる人達が連携し情報交換することで対応する力がつき、子どもたちを取り巻く環境を整え、能力を引き出し集団生活が円滑にできるような手助けに繋がるというものです。

教育委員会には、このような態勢がスムーズにとれるようそれぞれの専門分野の知恵と情報を駆使し、発達障害があっても将来に向け自立の道が開けるよう支援して欲しいと切に望みます。

発達障害学習会を開催します。詳細は4面をご覧ください!



# 傍聴席から

念願だった市議会を傍聴しました。

注目したのは、公民館を地域交流センターに変更する案件。可決を目の当たりにして、ようやくことの重大さに気がついた私。

今までどこか他人まかせ、市民ネット主催の学習会やパブコメを書く等、自ら積極的に関わるための選択肢は用意されていたはず。遅ればせながら、つくば市や市民ネットのHP・ネット通信をじっくり読んだり、私なりの小さな一歩を踏み出しました。

市議会は誰でも傍聴できるそうです。つくば市役所6階の傍聴受付で住所と名前を記入し傍聴席に入るだけ。百聞は一見にしかず、きっと何かが変わる！（吾妻 N.H.）

## つくば・市民ネットワーク総会

2月19日(土)13時30分～16時

つくば国際会議場 会議室304号室

### つくば・市民ネットワークの主な活動報告

- 10/13、14 決算特別委員会傍聴
- 10/14、28、11/11、12/2、16  
自治基本条例市民ワーキングチーム会議傍聴
- 10/22 農業生物資源研遺伝子組換えイネ栽培温室  
天窗開放問題について説明会
- 10/25、28、11/8 議員と話そう会開催
- 10/30、31 つくば環境フェスティバル2010出展
- 11/3 「こうすればできる、議会改革」開催
- 11/13 地域福祉計画策定にかかる市民懇談会参加
- 11/23 自治基本条例市民ワークショップ参加
- 11/28 大豆畑トラストつくば収穫祭
- 11/30～12/22 12月定例市議会
- 12/9 公民館問題学習会
- 12/20 入札制度調査特別委員会傍聴
- 12/25 街頭議会報告

※その他、学習会・委員会・審議会等へ多数参加・傍聴しています（詳細はHPをご覧ください）

## 発達障害学習会 誰でもできる支援

～発達障害の子ども達と共に暮らせるつくばを目指して～

2月5日(土)14～16時

つくば国際会議場 402号室

講師：鈴木直光先生（つくば市立病院副院長）

# ごみアンケート報告

市民ネットでは昨年、5～9月にかけ、ごみアンケートを実施しました（総数 205 名）。ごみ排出についての実態調査とごみ分別に関する調査が主な項目です。調査対象は平日の日中在宅している方が主でした。その結果、24%の方が生ごみを自宅で処理し、殆どの方が資源類を市の分別に従って処理しているということが分かりました。



雑紙も資源なんです！

ただ、そのような中でも、資源類を燃えるごみとして出している人が、雑紙16%、牛乳パック25%も。生ごみも雑紙類を資源として出せ

る点を広く伝えていく必要性を感じました。

市のごみ組成調査でも、家庭から出る燃えるごみのうち、25%が紙類という結果が出ています。その半分だけでも資源として出せば、ごみが10%削減できます。また、今より分別を増やす場合協力できる内容として、プラスチック容器包装27%、剪定枝21%、生ごみ20%という結果でした。

市民ネットでは、生ごみ削減にむけての「ダンボールコンポスト」紹介活動に加え、「雑紙類を資源として出せる」などの情報を広く知らせる活動、分別を増やしごみを減らすための調査・提案活動をすすめていきます。



めざせ！ごみゼロ！

## つくば・市民ネットワーク 会員募集中

多くの皆さんの声や参加が解決の原動力です。  
あなたの参加をお待ちしています。

Tel&Fax 029-859-0264

### \*\* 編集後記 \*\*

昨年12月議会、市民ネットも公平性を求め要望し続けてきた一般競争入札実現へ向け一歩前進の快挙！「今年6月を目前にこれまでの指名競争入札から条件付一般競争入札への全面移行」を全会一致で議会から行政に求めた。

一方、多々問題ありと継続審議になっていた「子育て総合支援センターの指定管理者の議案」は、新年1/14の文教福祉委員会で「提案どおり可決すべき」と逆転。卯年も波乱万丈な幕開け。二兎を追う者一の諺もあるが、今年も夢に向かって、ひるまず・たゆまず・あきらめず！何兎も追ってジャ～ンプ！